

# 公開実用 昭和51-3632

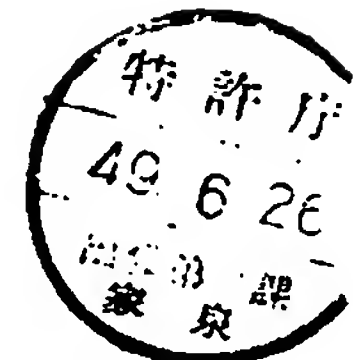


## 実用新案登録願(5) 後記号なし

昭和49年6月26日

特許庁 新 藤 英 雄 殿

1. 考案の名称 ～ノソノサナ  
半田種英雄
2. 考案者 ～ノソノサナ  
住所 東京都新宿区須賀町9番地5号  
氏名 株式会社 弘 輝 内  
手 塚 芳 治 (ほか1名)
3. 実用新案登録出願人 ～ノソノサナ  
住所 東京都新宿区須賀町9番地5号  
氏名 株式会社 弘 輝  
代表者 笠 原 恒 夫
4. 代理人 平150  
住所 東京都渋谷区神宮町6丁目16番2号  
氏名 ミクランション2F11号  
(7514) 弁護士 井ノ口 寿  
電話 (03) 409-7406 番  
(ほか1名)
5. 添付書類の目録  
1 明細書 1 通  
2 図面 1 通  
3 写真副本 1 通  
4 委任状 字1 通



手続提出の実用新案登録願(5) 添付書類(1)と(2)の用)

49-0712

## 公開実用 昭和51-[3632]

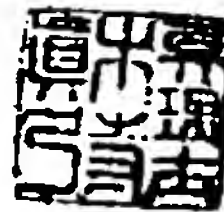
32

## 6. 前記以外の考案者

住所 東京都新宿区須賀町9番地5号  
株式会社 <sup>コウ</sup>弘 <sup>チ</sup>輝 内  
氏名 <sup>ナカ</sup>中 <sup>カワ</sup>川 <sup>ヒサ</sup>久 <sup>オ</sup>雄

## 7. 前記以外の代理人

住所 東京都渋谷区神宮前6丁目16番2号  
ミクラマンション2F11号  
氏名 (7755) 井理士 木 寺 真 弓  
電話 (03) 409-7406 番



## 明 細 書

## 1. 考案の名称 半田槽装置

## 2. 実用新案登録請求の範囲

溶解された半田を収容している半田容器と、前記容器内に浸漬されているポンプと、前記ポンプの排出口に連結され前記容器内に浸漬されているダクトと、前記ダクトに連結されている固定枠と、前記固定枠に上縁が水平で、かつ摺動自在に嵌められている可動枠と、前記可動枠を上下に作動させる機構とから構成される半田槽装置。

## 8. 考案の詳細な説明

本考案は浸漬式半田付け工程において使用される半田槽装置に関する。

平坦な溶解半田の面を利用して半田付けを行なう方法として基本的に次の2種類の方法がある。その第1は半田表面に向つて半田付け対象である、プリント基板等を下降させる方法、そ

---

**公開実用 昭和51-3632**

---

の第2はプリント基板等の上下方向の位置を不動として半田表面を上昇させる方法である。前記第2の方法を実施するために、従来の装置では半田槽自体の高さを制御するという方法が利用されていた。この方法には以下のような問題が残されている。

半田を収容した半田槽の重量は数百キログラム程度であるから、槽自体を上下させる機構は大がかりな油圧制御機構とかカム機構を必要とする。全重量が大きいため迅速な制御ができない。また溶解している半田の温度は、200度を超えるものであるから、安全性を十分考慮しなくてはならず装置全体はますます大がかりになるなどの諸点である。

本考案は上記の諸問題を解決した、安全かつ迅速に半田面を上昇させ下降させることのできる半田槽装置を提供することを目的とするものである。

上記目的を達成するために本考案による半田槽装置は、溶解された半田を収容している半田

容器と、前記容器内に浸漬されているポンプと、前記ポンプの排出口に連結され前記容器内に浸漬されているダクトと、前記ダクトに連結されている固定枠と、前記固定枠に上縁が水平で、かつ増動自在に嵌められている可動枠と、前記可動枠を上下に作動させる機構とから構成してある。

上記構成によれば、半田収容槽全体を上下する必要はなくなり、半田面の高さを迅速にかつ簡単に制御することができ、本考案の目的は完全に達成される。

以下本考案を図面を参照してさらに詳細に説明する。

第1図および第2図は、本考案による実施例装置を互いに直交する面で切断して示した図である。

1は溶解された半田を収容している半田容器である。ポンプ3は前記容器内に浸漬されており、4示しないモータ等によりインペラが回転させられて、半田容器1の下方から新鮮半田を

## 公開実用 昭和51-3632

くみあげる働きをする。

2は前記ポンプ8の排出口に連結されているダクトである。ダクト8は水平断面が略矩形である固定棒4を支持している。この固定棒4の開端面には複数個の孔4a, 4b, 4c, 4d等が設けられている。固定棒4には、上端が水平になるように可動棒5が滑動可能に嵌められている。

この可動棒5にも前記固定棒4に設けられている複数個の孔5c, 等が設けられている。これ等の孔は、可動棒5が図に示す下側の位置にあるときに、固定棒4の内部と<sup>可</sup>移動棒5の外部とを連通させ、可動棒5を上昇せしめ最上位置に達すると互いに他の壁面でふさがれるように設けられている。



アーム6, 6', ピストン7, 7', およびシリンダ8, 8'は可動棒5を上下に作動させる機構を構成している。この実施例においては可動棒5を油圧により上下させる例を示している。

本考案による実施例装置は以上のように構成

( 4 )

されているから、ポンプ8を回転させ、油圧機構により可動棒5を順次上昇せしめると溶解されている半田は可動棒5の上縁からオーバーフローして可動棒5の上縁の位置で規制される水平な半田面が形成される。

各棒に前述したような孔を設けておけばポンプ8を定速で回転させ続けても半田表面は高さに関係なく水平に保たれる。可動棒が下の位置にあるときに噴流量の増加分は孔群を介して棒の外側に流出せしめられるからである。もつとも、可動棒の高さに連動させてポンプ3の送出量を規制するように構成すれば、4a...4d, および5c等の示す孔を設ける必要はなくなる。

本考案による半田槽は以上のように構成され作動するものであるから従来装置に比較し可動部分の慣性が小さく、簡単な上下機構を採用しても、迅速、確実に半田面の高さを制御することができる。

本考案の説明にあたり具体例を示し詳細な説明を行なつたが、この具体例につき種々の変形

# 公開実用 昭和51-3632

2.5

が可能である。例えば、可動棒の上下を制御する機構であるが、油圧機構でなくとも、モータにより回転させるカムを利用するとか、上方にチェーン等で引き上げるとか種々の手段に置換できる。要するに本考案の趣意は上記実施例に限定されることなく実用新案登録請求の範囲の記載のすべてにおよぶものである。

## 4. 図面の簡単な説明

第1図および第2図は本考案による実施例装置を示す図である。各図は実施例装置を互いに直交する平面で切断して示している。

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 ... 半田容器     | 2 ... ダクト     |
| 3 ... ポンプ      | 4 ... 固定棒     |
| 5 ... 可動棒      | 6, 6' ... アーム |
| 7, 7' ... ピストン | 8 ... 油圧シリンダ  |

実用新案登録出願人 株式会社 弘 輝

代理人 弁理士 井 ノ 口 寿

同 弁理士 木 寺 真 弓

55712



図1

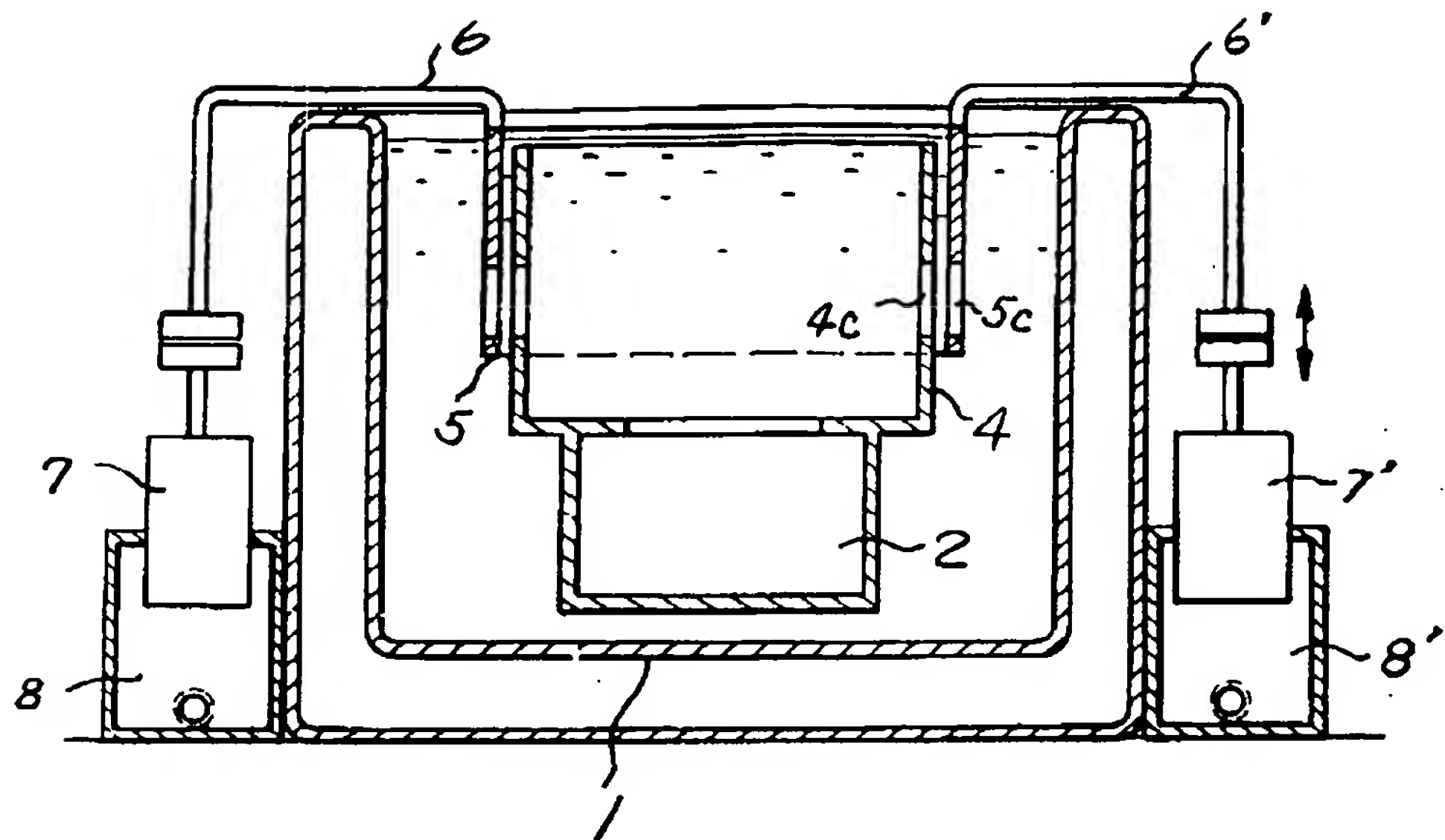
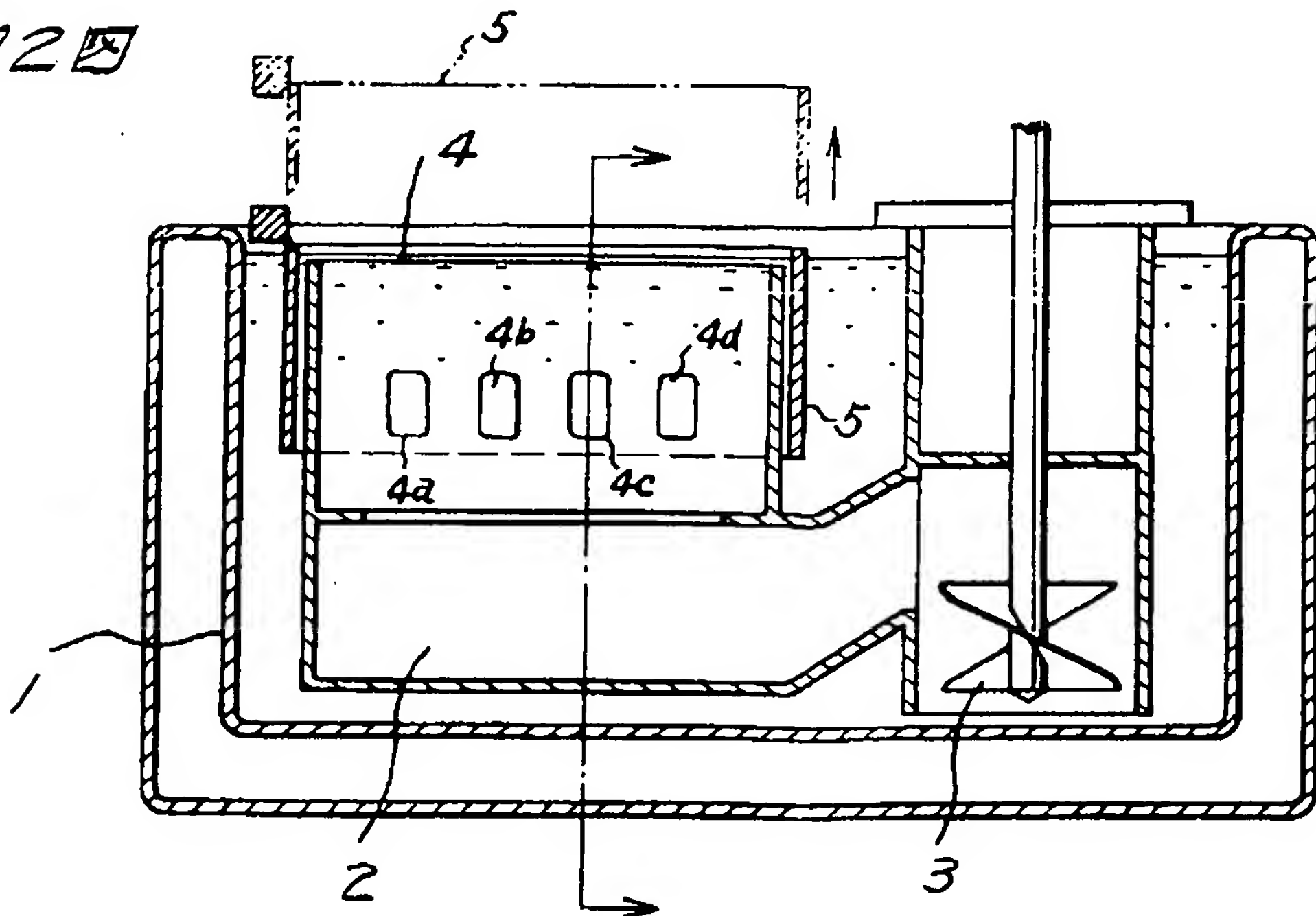


図2



3632

代理人 井ノ口 壽